障がい者の就業機会の拡大のための
職業指導員のなし栽培技術の習得

対象者　職業指導員Ｓ氏

【普及活動のねらい】

管内の就労継続支援Ｂ型事業所Ｗでは、農業事業として、いちご、露地野菜、なしなどの農作物を栽培し、職業指導員Ｓ氏が利用者へ栽培指導を行っています。しかし、Ｓ氏はなしの栽培経験がないため、Ｓ氏自身の栽培技術の習得と利用者への栽培指導の方法が課題となっていました。そこで、職業指導員の技術習得を通した障がい者の農に関する就業機会の拡大を目指し、Ｓ氏に対する技術指導支援と、Ｓ氏が利用者へ栽培指導を行う際に活用できる指導資料の作成支援を行いました。

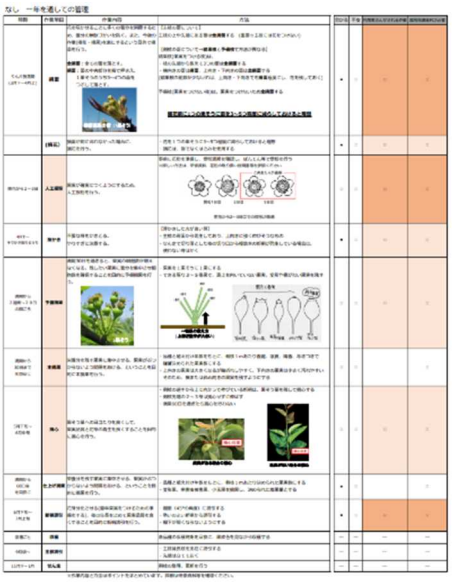
【普及活動の内容】

なし栽培の技術指導支援

なし栽培の基本技術習得のため、甲賀地域なし栽培研究会の研修会に参加し、年間の栽培管理の流れや方法が習得できるよう支援しました。さらに、先輩農家の園で、栽培管理の注意点やコツを教わる機会を設けました。また、枝管理などの日々の管理作業や、病害虫発生時の対応など、現地での指導をこまめに行いました。

なし園で枝管理について説明

技術習得の達成度を測ることを目的に、年間に必要な作業をまとめた「理解度チェックシート」を作成し、Ｓ氏自身の理解度を確認しました。また、次年度に向けて支援が必要な部分や、利用者への栽培指導についてＳ氏の意向を確認しました。



理解度チェックシート

指導資料の作成支援

利用者へ栽培指導を行う際に使用する指導資料については、資料が必要な作業を聞き取り、図や写真を中心に見やすく分かりやすい資料になるよう、Ｓ氏と相談しながら作成支援を行いました。

【普及活動の成果】

研修会や先輩農家の園での作業、現地指導を通して、「理解度チェックシート」の理解度が 90％となり、Ｓ氏自身の栽培技術の習得を図ることができました。また、栽培管理では、病気の発生や枝管理の遅れなどの課題が生じたものの、指導資料も試験的なものが作成でき、Ｓ氏が利用者に栽培指導を行う準備ができました。今後も、Ｓ氏自身の栽培技術の向上と、利用者に対してより効果的な栽培指導を行い、安定した収量が確保できるよう支援を行っていきます。